

学習成果を把握(測定)する方法

	時期	方法	学習成果・学位授与方針との関連
人間環境学部	初年次教育 (学部専門)	<p>・春学期の全員必修科目「人間環境学への招待」⇒導入教育</p> <p>・秋学期必修「基礎演習」⇒少人数導入教育・アクティブラーニング</p> <p>この2科目を中心とした教育と成績や、「人間環境学への招待」で行うアンケート、大学が行う1年生アンケート等を通じて、学部教育の全体像の理解度と2年次以降の自主的な学習計画の自覚度、およびアカデミック・リテラシー能力の基礎が身に付いたかどうかを測定する。</p>	主にDP1 (DPは「卒業時」の欄参照)
	2年次以降 (学部専門)	<p>「コース制」を特色とするカリキュラムポリシーに照らして、下記の指標を用いて成果を測定する。</p> <p>(1)研究会(ゼミ)における研究発表、論文、自発的な課外学習や関連する課外活動等の評価により、研究会をコース制における自分の専門性の「軸」に成し得ているかどうかを測定する。</p> <p>(2)コース制に基づく専門課程の選択必修科目においては、成績のほか、履修記録も参照して、特定の分野に偏らず幅広い履修を心がけ、「学際性」を身に付けるのに有効な履修ができていくかどうかを測定する。</p> <p>(3)「学際性」と一体のカリキュラムポリシーの特色である「社会との交流・連携(現場体験重視)」に関しては、そのポリシーを具現する選択必修科目である「人間環境セミナー」・「フィールドスタディ」「キャリアチャレンジ」の成績や参加意欲を通じて、「社会人基礎力」を身に付けられているか、また自らのキャリア形成の意識付けの機会として活かしているかどうかを測定する。</p> <p>(4)グローバル化に対応する科目群(グローバル・サステナビリティコース関連科目、フィールドスタディの海外コース、SA、グローバルオープン科目、英語学位プログラム(SCOPE)との相互乗り入れ科目等)については、それらの成績や履修記録を通じて、グローバル人材としての成長と意欲を測定する。</p>	<p>(1):研究会(ゼミ)に関する測定……DP3・4・5</p> <p>(2):コース関連講義科目に関する測定……DP2・3</p> <p>(3):社会連携・現場実習関連科目に関する測定……DP4・5</p> <p>(4):グローバル対応関連科目に関する測定……DP3・5</p>
	教養教育 (ILAC科目等)	<p>入学時から卒業時まで、学部専門科目の履修と並行するILAC科目の履修においては、まず初年次では、成績や履修記録を参照して、基盤的な教養を身に付けたかどうかを測定する。</p> <p>その後は、専門課程で求められる学際的かつ総合的な幅広い教養と豊かな人間性の涵養を、教養教育科目で補完できているかどうかを、成績や履修の積極性(履修記録)により測定する。</p>	ILAC科目に関する測定……DP1・2
	卒業時	<p>研究会修了論文・コース修了論文・プログラム修了論文、履修記録と成績(ILAC科目も含む)、卒業時アンケート等を用いて、ディプロマポリシーで求める能力が身につけているか測定を行う。</p> <p>加えて、研究会(ゼミ)ごとの目目標や指針に照らした成果として、一律の</p>	<p>ディプロマポリシー</p> <p>1 実践的な語学や情報処理の基礎的な能力、文献購読・文章作成・コミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。</p> <p>2 持続可能な社会に関する幅広い教養を身につけている。</p>

	時期	方法	学習成果・学位授与方針との関連
		<p>評価手段ではなく、本学部のゼミのテーマ領域の多様性を反映する様々な成果指標により、学部のDPで求める能力修得に関する積極性を測定する。例えば、ゼミ内の留学者数(自主留学も含む)や帰国者の成果報告、ゼミで奨励する資格取得へチャレンジした人数(受験者数・合格者数)、ゼミのテーマと関連深いインターンシップやイベントへの参加、卒業後のゼミと関連深い進路選択(就職状況)、等々である。</p>	<p>3 持続可能な社会に関する学際的かつ総合的な専門性を身につけている。</p> <p>4 持続可能性に関して具体的な課題について考察した上で、適切な判断を導き、それらを文章や対話を通じて表現することができる。</p> <p>5 社会の多様な人びとに対して共感する力と、現場(フィールド)から主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>左記の各判定材料は、上記DP5 項目それぞれと有機的に関連するため、個別に何がどれに関わると分類することは不可能であり、個々が1～5の全てを総合的に判定する材料となる。</p>